

## ニホンリスとキノコ

小田嶋 晴子



図1

写真は2018年7月下旬、青森県八戸市の太平洋を背にした海岸近くの岩場（種差海岸のクロマツ林）にて撮影したものです。

会報34号にリスの食べているキノコのお話がありましたが、「リスがわかってもキノコはわからないのが問題」とのこと、ほんとうにそう思います。私もキノコの正体はわか

りません。一応、キノコがわかる画像をピックアップしてみました。

このクロマツ林には、タマゴタケが幼菌から老菌までたくさんありましたが、食べられていたような気配は無し。他にはイグチ系のキノコなどもありました。湿度も適度にありました（地面は湿っていました）。



図2：図1のキノコ部分拡大



図3：図1のキノコの傘側部分

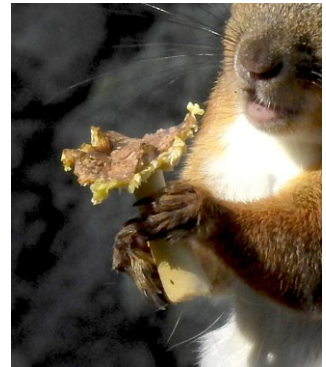


図4：キノコ部分（2本目）



図5：リスがもぎとったと思われるキノコの根元（2本食べていた）



図6：リスが食べたキノコの残骸



図7：図5のすぐ近くにあったキノコ（参考）

※柄の上に明瞭な内被膜のなごり（ツバ）が見られること（図2）、傘の上に明かな外被膜のなごり（イボ）が見られること（図3・4・6）、柄の基部にもテングタケ様の外被膜のなごり（ツボ）が見られること（図5）、などの理由により、ニホンリスが食べているきのこの種類は、テングタケ属（種名は不明）と思われます。（吹春俊光）